CULTURAL ***SPACE QUEST***

将来を見すえた“真のゆとり”教育。

学校法人名進研学園は、2012年4月に名進研小学校を開校した。
「自ら起つ気概と、揺るぎない力を」という教育理念に則って「知・徳・体」のバランスが取れた教育を目指す。
小学校は、基礎学力づくりとともに人間性の土台づくりの場でもある。
だからこそ、学習塾で培ってきた力を活かし、子どもたちの将来を見すえた質の高い初等教育を行う。
学校での充実した教育が子どもたちに“真のゆとり”を実現するという独自の初等教育についてうかがった。

学校法人名進研学園
名進研小学校
MEISHINKEN ELEMENTARY SCHOOL

所在地：愛知県
設計：株式会社 日本設計

左側／管理棟。1年生（下）と6年生（上）の教室を望む
右側／普通教室棟

1 普通教室（2年生）／南側の開口部だけでなく天窓からも光を取り入れ、一般的な公立小学校の約1.5倍の広さを確保し、明るく開放的な空間で目的に応じた多様な授業を行う。デスクの高さとイスの座高は、子どもたちの身体に合わせて学年ごとに調整されている。イス：アイパッグ、デスク：SCM-400　2 体育館／天井照明のほか三方にハイサイドライトを設けて自然採光に配慮している。イスを並べれば約800名を収容できる。イス：LUSH　3 会議室／イス：LUSH、デスク：CTZ　4 ランチルームに隣接する能舞台と和室／ランチルームが観覧席となり、能や狂言を鑑賞できる。

意欲ある子どもたちを育てるために、東海初の塾立小学校を開設。

名進研小学校
校長
森田 圭介 氏
Keisuke Morita

名進研は30年近く私立中学受験に携わってきたので、小学生と接する機会がたくさんありました。その間の私立中学受験をみると、入試問題のレベルは年々アップしているにもかかわらず、子どもたちの基礎学力は低下する一方でした。そのギャップは徐々に大きくなり、今では塾に頼らなければ中学受験はできないと言われています。これは塾側から見ても普通ではない事態だと思いました。

子どもたちの様子でもうひとつ気になったのは、いろいろなことに対する意欲の低下でした。夢を見つけられない10代の青少年が問題となりましたが、今ではそれが低年齢化しているように思われます。自らを奮い立たせられる環境を用意してあげないと、その子たちが大きくなったときに目標を持てない人間になってしまいます。しかし、そういった心の問題は塾では解決しにくい状況がありました。

それらが動機となって、「小学校での学習だけでも中学受験が可能であることを証明したい」という強い想いを持つようになりました。こうして小学校設立計画が20年程前から動き始め、「知・徳・体」をバランスよく育む全人教育を基本とし、＜聡く 正しく たくましく＞※を校訓とする新時代の塾立小学校が開校したのです。

※＜聡く（さとく） 正しく　たくましく＞：未来を切り拓く聡明さを持ち、礼儀正しさと品格を兼ねそなえ、よりよい社会を創出できるたくましい子になることを教育目標とする。

充実した授業と細やかなサポートで、確実に学力をつける。

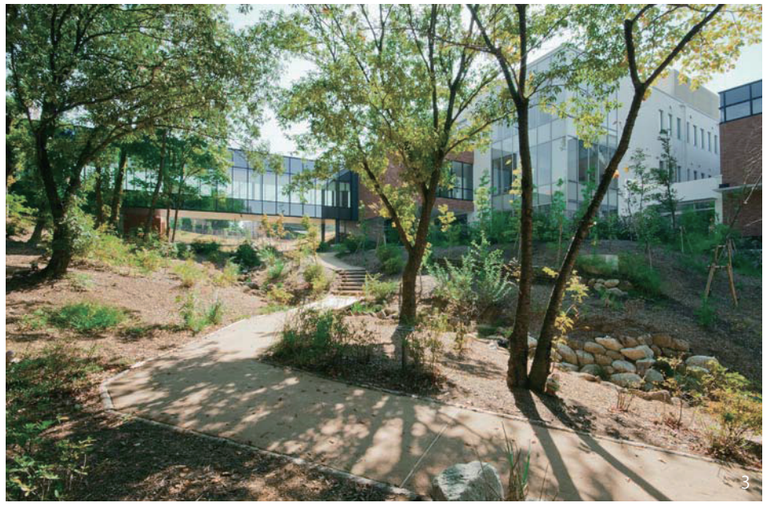
校訓の＜聡く＞にそった学力づくりは、①豊富な授業時間の確保　②新教科「礎」の設置　③独自の授業内容や教材の用意を特徴としています。①については、1年生から平日は1日6時限そして土曜日も3時限の授業を行うなど、6年間を通して公立小学校より1345時限多く学びます。②の「礎」をひとことで言うと「勉強の仕方を勉強する教科」で、各教科活動の基盤となる多様なスキルを教えます。教材は日常生活の場面や新聞、本などです。例えば、1年生の「礎」では、国語の教科書を題材に「国語って何を勉強するの？」という授業を行って、考えたことをグループで話し合ったりしました。③については、検定教科書に加えて進学塾「名進研」のテキストも使用し、専門教科教員が指導します。

指導体制は、1クラス30名定員の児童を、複数担任と専門教科教員が連携してきめ細やかに指導します。1つのクラスに複数の教員が関わることの良さは、多くの目で偏りなく子どもの様子をみられることです。担任が気づきにくかった“子どもの良いところ”を、専門教科の先生が教えてくれることもあるでしょう。ITを活用した授業はありますが、本校では書いて覚えることを重視しています。オリジナルノートも用意しており、テキストとノートは教材からはずせません。

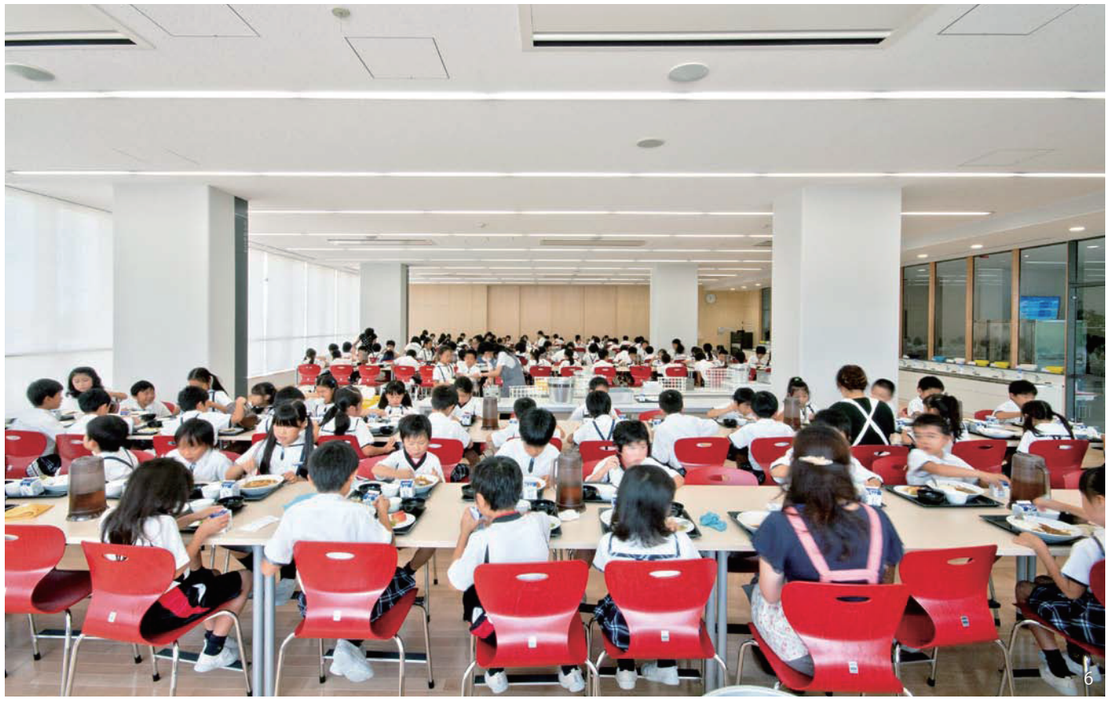
日本の良さを知る、品格と志の高い子どもを育てる。

＜正しく＞は、人格形成に関わる指針です。品格や礼節などについては、日本の伝統文化や古今の偉人の生き方などを通して、自然に感じ取ってほしいと思っています。総合的な学習の時間の中には「伝統文化」の授業を取り入れ、「和室の使い方」から始めました。実は先日、保護者の方から「和室を使った法事の席で、わが子のお辞儀が一番きれいだと祖母から褒められた」というお電話をいただきました。学んだことが日常生活に生かされた一つの表れと言えます。

これからは国際人教育の時代ですが、既設の小学校はほとんどが「国際人教育」＝「英語教育」といった図式の対応です。本校ではもちろん英語教育にも力を入れていますが、自国の伝統文化についてきちんと理解していてこそ初めて国際人たりえると考えています。まずは自分の国の良いところをよく知ってほしいと思います。ランチルームの隣に能舞台を設けており、夏休みには狂言教室を開催しました。本物に直接触れる機会をできるだけ与えたいですね。



1 馬場と厩舎／普通教室棟最上階の裏手にある。 2 テラス／各教室からはテラスを通って校庭へ直接出入りできる。2階以上のテラスには下層の天窓に射し込む明かり取りが設置されている。 3 休み時間は爽やかな緑のなかで遊ぶ。ビオトープや里山を望む。 4 メディアルーム／図書スペースには、子どもたちが読書体験を通してその生き方・考え方に触れられるよう、偉人たちの伝記を数多く揃えている。イス：アイパッグ、テーブル：特注品 5 パソコンルーム／メディアルーム内にあり壁面はガラス張りである。イス：ＰＥＮ-ＭＡＣ/ＰＡＤ1（Ｆ） 6 ランチルーム／異学年グループで教員と共に食事をとる。イスはテーブルの高さに合わせて用意しているが、さらに低学年には座高に合った足掛けを設けて対応している。イス：アイパッグ、テーブル：ＤＴ-15特



自然の中を駆けまわり、生き物にふれることで心身を鍛える。

＜たくましく＞にそった心身の鍛練では、自然の中を駆けまわって体力をつけ、生き物とのふれあいを通して豊かな情操を育みます。里山が残るこの立地だからこそ可能なことだと思います。今は、大人が先回りして子どもを守りすぎる傾向があり、走り回って怪我をする体験も減っています。子どもたちは、痛い思いをすれば次からは自分で力の加減が出来るようになります。

また、子どもたちにとって生き物とのふれあい体験は大事なことで、十分な敷地がある本校では馬場と厩舎を設けてポニーとふれあえるようにしています。子どもたちは喜んで世話をしたり乗ったりと、大変人気があります。2頭のポニーには育て親のつけた名前が既にあり、「イゴ」と「ショウギ」です。「新しい名前をつけようか」と子どもたちに問いかけたところ、「この馬たちにはもう名前があるのに、なぜ変えるの？」と反対されました。

様々な環境づくりをして、家庭でのゆとりをつくり出す。

現代では家族がそろって多人数で食事をとる機会が減っています。「みんなで楽しく食事をとらせたい」と思い、200人以上が入れる大きなランチルームを用意しました。異学年が集まり、高学年は低学年の世話をしながら食事を楽しみます。地元産の無農薬や減農薬の食材を使い、アレルギー対応については定期的に、保護者・栄養士・養護教諭で献立の打ち合わせをしています。

アフタースクールにも力を入れていきます。お母様方の中には第一線で仕事をされてみえる方も多く、そうしたご家庭にはアフタースクールを有効に活用していただければと考えています。現在は里山を活用した探険クラブやスナッグゴルフ※クラブ、パズル道場などがあり、おやつを食べた後、外部の専門スタッフに習っています。いずれは乗馬クラブやサッカークラブなどの設置も予定しています。

保護者との連携も重視しており、進学塾「名進研」の新鮮な中学受験データを保護者会でお伝えする他、日常の電話連絡をこまめにするように心がけています。

理想の教育を実現するには、保護者や家庭への配慮も、環境づくりとして大事なことだと考えております。

※スナッグゴルフ：Starting New At Golfの頭文字を採った造語。子供でもボールを容易に打つことができ、場所を選ばず安全にプレーできる簡易版ゴルフ。